

字の書き方の規格*

西村 恕彦**

1. 問題の提起

プログラミングの初心者教育をしていると、コーディング用紙への字の記入の仕方を規格として定めておく必要性を痛感する。プログラム実習における「虫」のかなりの部分がパンチミスに由来し、しかも、そのパンチミスの大部分は、キーパンチャの責任というよりは、コーディング用紙に書いてある字の不適切さに起因するのである。

不適切な字の書き方の問題は、初心者だけにあってはならない。たとえば、雑誌に執筆するような人たちは、初心者とはいえないであろうが、その原稿が印刷所で処理されて、印刷された文章になったものを見ると、FORTRAN というふうに、オーの上に余分なバーがついていたり、OがQに、Xが×に、IやUが小文字に誤植されていたり、ZやDに余分な点をつけた活字を新鋳したりされている。

適当にスタイライズされた字の書き方は、つまらないロスの機会を減少する。字の書き方の規格は、いずれにせよ、作られなければならない。その規格は、筆者の私見では次のような使用目的を考慮しなければならない。すべてを同時に満足させることができないとしたら、相互の間の相違が重大でないように、調整をしておかなければならない。

- (1) コードからキーパンチャ向け
- (2) 執筆から印刷所向け
- (3) 光学式文字読取装置 (OCR) 向け

また、規定の範囲には、現在の情報処理技術の動向を考えて、大文字と小文字の区別や、ある種の記号も含めておかなければならない。

最近、公表されたアメリカ規格案† は、はなはだ興味深いものであり、今後ますます重要になると信ずるので、ここに抄訳の形で紹介しよう。

2. アメリカ規格案

前文 データ処理の最初の段階は、人間の読む文字を機械向きに変換することである。またそれ以前に、手書きの文書が人から人に渡されることもある。まちがえやすい文字があって、組織ごとに異なった区別のつけかたをしてきた。

まちがえやすい文字の組の一方に、しるしをつけることが多い。やり方はいろいろである。きまった文字にしるしをつけることは容易に習得できるのだが、組織間での、人や文書の移動が活発になって、異なったやり方による混乱が起こり始めた。常用される文字に対して規格を作ることは、産業界にとって大きな利益となろう。

X 3.6 問題記述と分析小委員会は、この規格を担当した。各方面の慣習や意見を調べ、ほかの分野における関連したアメリカ規格を検討して、以下の案を作成した。

目的 情報処理系における手書きの英数字の形を定めて、あいまいさや読み誤りを防ぐ。

範囲 手で書いてから、手で機械向きに変換する場合における、人から人への通信に用いる。OCR、MICR、および機械から出力される文字は含まない。

文字 手書きの数字および英大文字の形を第1図のように定める。

補則 一つのドキュメント中では、文字の大きさは一律にする。文字の向きは垂直、または一律に 22.5 度かたむけて書く。

注意 英小文字、句読記号、演算記号、特殊記号、ほかの規格との関係、外国の文字などについては、現在検討中である。

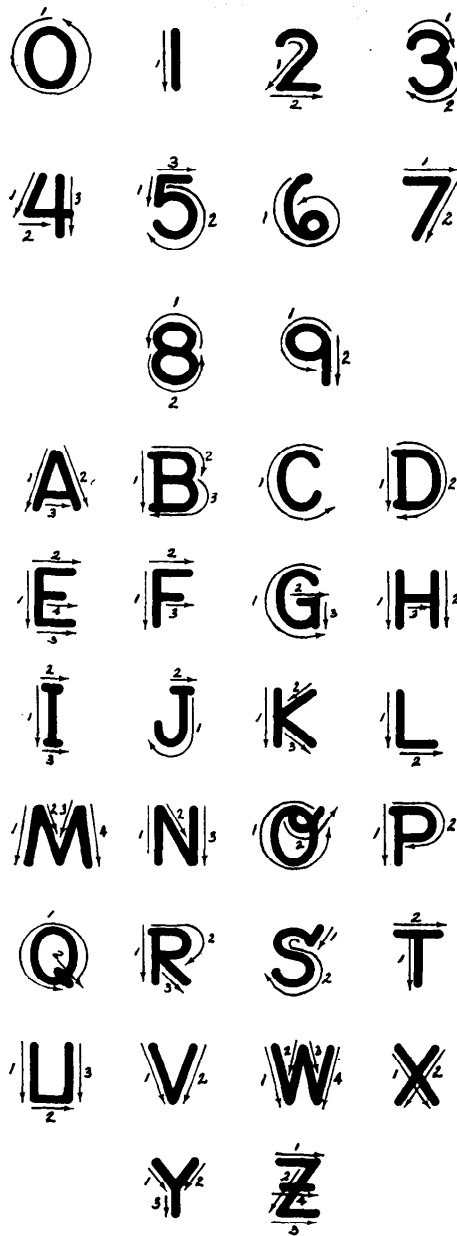
説明 文字の画数が少なく、しかも字画のつづきぐあい自然なようにした。製図文字および印刷文字と似た形になるようにした。

英字のほうにだけ余分なしるしをつけ、数字のほうには余分なしるしをつけないことにした。英字のしるしのつけかたは、一つ原則 (つまり、セリフをつけるという) にしたがうようにした。下線、上線、斜線、

* On pANS Presentation of Alphameric Characters for Information Processing, by Hirohiko Nisimura (ETL)

** 電気試験所

† Proposed American National Standard, Presentation of Alphameric Characters for Information Processing, ANSI Document X 3.6.3/6, 1968 Sep. 20, in CACM 12-12 p. 696 (Dec. 1969).



第 1 図

横棒などは避けた。

数字 7 ヨーロッパでは数字 7 に横棒をつけるが、アメリカでは採用できない。

ゼロとオー データ処理分野の多くの組織では、英字オーに斜線をつけていることがわかった。しかし通信の分野ではゼロに斜線をつける。この例については「CACM, 10-3」をみられたい。

事務用プログラムではゼロにするしをつけることが好まれ、科学計算用プログラムでは英字にするしをつけることが好まれていた。委員の多くは、その組織内ではある慣習をもっていたのだが、とにかく、なにか規格を定めることに賛成した。

このようにスタイライズされた文字を印刷する機械はたくさんはないのだが、現在のところでは、このあたりがいちばん使いやすい形であろう。

各論 B, D, I, J, P, R はセリフ (serif) のついた形とする。Gは中のセリフ、Sは上のセリフだけを書く。Oは上部を丸めて上にはねる。Zは中央に横棒をいれる。

3. 批 評

筆者の考えていたねらいに、この規格案はかなりよくこたえているようにみえる。たとえば、わが国で広く用いられている上線のあるオーは、マイナスゼロとまぎらわしいというただ一点で、とうてい賛成できない。この規格案はまた、印刷業者に無用の負担をかけることなく、印刷用の原稿にも利用できそうである。

上記の「説明」にあった、画数を少なく、つづきぐあいが自然にという目標は、あまり達成されていないようにみえる。わが国で果たして、MやWのこの書き方が広く採用されるであろうか。もっとも、わざと書きにくくしたほうが、字の形の崩れが生じにくいかもしれない。弧の書き方の回転の向きが両方あるのもいやである。

細かいことをいえば、数字 1 や 7 はどうであろうか。1 は斜線および縦線とどう区別をつけるか、おって問題となろう。7 は、わが国ではセリフのある形が標準として教育されているので、しいてそれを除く必要はないだろう。

いずれにせよ、印刷字体までふくめて、明快な字の形が定められることは望ましい。会員諸氏の関心をひくことができれば幸いである。

(昭和 45 年 2 月 19 日受付)